信用スコアの衝撃

― AIが行動を点数化するエコシステム ―

主任研究員 柏村 祐

＜「快楽の踏み車」＞

人は物心がついた頃から点数という評価に一喜一憂しているのではないだろうか。例えば学校に行けば試験がある。試験を受ければ点数を付けられるため、高得点を取りたい人は一生懸命勉強する。試験で良い点数を取ろうとするインセンティブは良い学校、良い会社に入るためのステップだと考えられている。スポーツの分野でも同じことが言える。野球やサッカーでどちらのチームが勝っているかは点数でわかる。点数は試験やスポーツに留まらない。外食に行く際にも、お店選びで失敗したくない人のためのグルメサイトが盛況だ。筆者の周囲でも外食に行くとなると、必ずグルメサイトを確認し「このお店は高得点だから安心」と言っている人は多い。他にも、家電、宿、映画、不動産等、点数が付けられる対象物は無数に存在している。高い点数を取り、常に上を目指すようになる人間心理を心理学では「快楽の踏み車」と呼ぶ。現状を改善し続けることを望む心理状態を言い、満足と幸福が永遠に得られないような気がして、踏み車を回し続ける。例えば収入や社会的ステータスが上がっても、気分が高揚するのは一瞬で、もっと収入をあげたい、社会的ステータスを上げたいと思い、現状に満足できないというのもその一つである。今の世の中、あらゆるものに点数をつけているのは、高い点数を得ることが満足と幸福に関係していると思っている人が多いからではないだろうか。

＜中国における信用スコアの浸透＞

中国では人々の社会的な信用度を点数化するシステムが浸透している。

従来金融業界で利用されてきた信用スコアは、あくまでも閉ざされた範囲内で利用される情報であったが、現在中国で利用されている信用スコアサービスはオープンに利用され、生活者の日々の生活や行動を変えつつあるようだ。

信用スコアサービスは、中国のアリババが2004年から提供している電子決済サービスの支付宝（Alipay）の付帯機能として2015年から始まっている。ちなみに2017年10月時点でのこの電子決済サービスの利用者数は６億3,000万人に達している。中国の人口は2018年４月時点の IMF 推計で約14億万人であるため、約45％もの人がこのサービスを使っていることになる。この電子決済サービスはネット通販や公共料金の支払などに使われ、利用履歴が信用スコアサービスである「芝麻信用」に反映されるよう

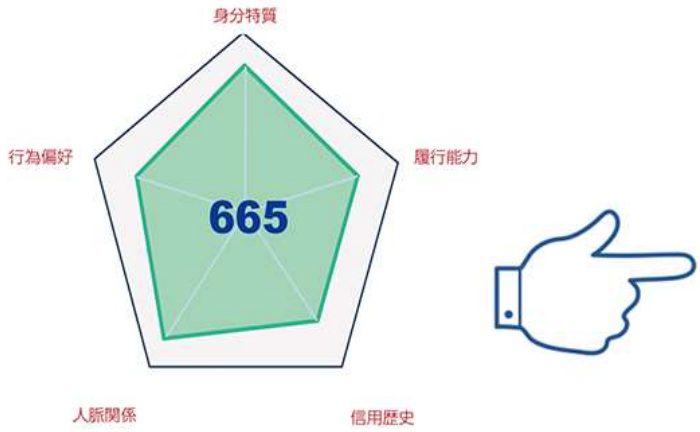
になっている。

芝麻信用における信用スコアサービスは、次の５つの領域について個々人の点数を算出し、総合点数が決定する（図表１）。

① 「身分特質」…社会的地位・身分、年齢・学歴・職業
② 「履行能力」…過去の支払い状況や資産など
③ 「信用歴史」…クレジット・取引履歴など
④ 「人脈関係」…交友関係及び相手の身分、信用状況など
⑤ 「行為偏好」…消費の特徴や振り込み

個人の信用は５段階に区分され、スコア幅は350点～950点となっている。図表１の例でいえば665点なので「信用優秀」に該当することになる。点数が高ければ高いほど評価が高い仕組みとなっている。

図表１　芝麻信用における信用の点数化の5つの領域とスコア区分



芝麻信用スコア区分	評価
350～550	信用較差
550～600	信用中等
600～650	信用良好
650～700	信用優秀
700～950	信用極好

出所：総務省「海外におけるICTを活用した労働参加・質の向上及び新サービスの展開に関する調査研究」（平成30年）

信用スコアが高くなればスコア区分に応じて特典が受けられるようになっている。例えば650点に達すると、前金無しで車が借りられ、ホテルや空港で優先チェックインの資格が得られる。700点以上になると、シンガポールが雇用契約書等の書類なしで信用スコアをビザ審査に使うことを認めている。750点になると、短期訪問ビザの取得が優先的に認められる。

このように信用スコアの点数を通じて信頼できる人であることが証明できると様々な特典を享受できることが、利用者数を伸ばしている要因となっている。

＜日本における信用スコアサービス＞

日本でもこれに類似しているサービスが2017年９月から開始された。AI スコアという概念を取り入れ、AI を活用して、個人のさまざまな情報から、個人の信用力をスコ

ア化している（図表２）。

筆者も試しに登録してみたが、1,000点満点での現在のスコアが算出され、借りられる金額と利率が簡単に表示される。330万円を年利0.8%で借りられることが判ったので本当に年利0.8%でお金が借りられるか申し込みをしたところ、50万円までは本人確認書類で借りることができ、330万円借りるためには、収入証明書を提出すれば可能という審査結果だった。

中国の信用スコアサービスで実施されている各種特典に似たサービスもある。例えば、世界最大級の動画学習サイトの特別価格での提供や、各種キャリア支援セミナーの優待等の「キャリア支援や自己啓発」に特化した特典がある。また旅行やレストラン等におけるプレミアムプラン提供等の「ライフスタイル」に関連するものも特典として提供されている。これはまさに中国で浸透している信用スコアサービスの仕組みと同じで、個人が信用スコアを高めれば特典が得られるようになっている。

図表2　スコア及び貸付利率、契約限度額

出所：信用スコアサービスより筆者作成

信用スコアサービスに関しては、イギリスの作家ジョージ・オーウエルの小説「1984年」で描かれている全体主義国家によって統治された近未来世界を揶揄する論調がある。その世界ではあらゆるところにテレスクリーンと呼ばれる監視カメラが設置され、国民の一挙手一投足がモニタリングされると同時に、最高指導者とされるビッグ・ブラザーと呼ばれる人物のポスターが町中に張られ、ポスターの中には「ビッグ・ブラザーがあなたを見守っている」と説明がされている。同時に、宗教や言語や結婚なども厳しく統制されている。

実際に信用スコアサービスが浸透している中国においての現状はどうなっているのだろうか。筆者の友人である中国人に信用スコアについての現状を聞いてみたところ、合コンなどの出会いの場においては、事前に出席する相手の信用スコアを見て、信用がおける人なのか判断することがあるし、結婚相手としてその人が相応しいのか確認する動きが拡大しているという。また、信用スコアサービス導入以前は、借りた

シェアリング自転車を指定された場所に返却しないケースが多発することが社会問題となっていたが、導入後は自分のスコアが減点されないよう指定された場所に返却されるようになったそうである。

信用スコアサービスが示唆することは、「1984年」に描かれたディストピアの側面だけではなく、社会秩序を維持するために国民が自らの行動に責任を持つというプラスの側面もあるということであろう。日本において信用スコアサービスが普及するには、先行している中国の信用スコアサービスの良いところを取り入れ社会実装することが重要な視点になるのではないだろうか。

（調査研究本部　かしわむら たすく）